



Profile

村上 正志 (ムラカミ・マサシ)

京都府立医科大学卒業。
元京都府立医科大学客員講師。
統合医療、抗加齢医療、点滴療法、ハイパーサーミア(温熱治療)等、幅広い視点から、がん治療に取り組んでいる。

京都 ≧ あきらめないがん治療 末期がんの人でもできる最新治療 腹腔内がん治療 / レーザー光治療 / 新遺伝子治療

村上内科医院

京都山科きぼうのクリニック

理事長 村上 正志 医学博士

終末期医療(ホスピス)を勧められた人に体に負担の少ない腹腔内(胸腔内)がん治療を行い、余命どころか長期延命の成果を挙げている。

さらに腹腔内がん治療の効果が不十分な方や外科手術ができない方に対してレーザー光や最新の遺伝子治療も導入している。

現在も全国からたくさんの方の相談・治療に応じているが、手遅れになる前(腸閉塞・黄疸・るいそ?)にしても早くの受診を勧めている。特に腸閉塞は命に関わる非常に危険な状態である。

キーワードはがん性腹膜炎、腹腔内がん治療、光感作性物質、レーザー治療、8種遺伝子複合治療

腹腔内がん治療 もう治療が無いといわれても

腹腔内がん治療とはお腹の皮下に埋め込んだ力テーテル(ポート)から直接抗がん剤を投与する治療法です。(ポートの留置手術は保険適応です)

腹腔内がん治療は一般的に行われている点滴の全身化学療法に比べ、腹腔内のがん細胞に直接効くため腹部症状に対して効果が得やすく、かつ抗がん剤の使用量も少ないため、副作用が少ない治療です。そのため治療法がなくなり、終末期医療(ホスピス)を勧められた方、高齢の方でも当院では治療を積極的に進めています。

レーザー光を用いたがん治療

がん性腹膜炎の方だけでなく腹腔内に大きな腫瘍がある

り腹腔内がん治療だけでは効果が不十分なこともあり当院ではレーザー光を併用した最新のがん治療を導入しています。

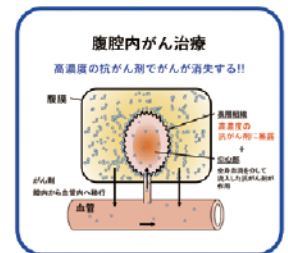
これは、がん細胞に集積しやすく加工(リポソーム化)した光感作物質を点滴し、それが蓄積した腫瘍に対して、レーザー光を照射します。レーザー光は、放射線治療(陽子線・重粒子線含む)とは異なり、他の

正常細胞へのダメージはありません。光感作性物質が、蓄積したがん細胞にのみ反応し、がん細胞を特異的に死滅させるため、副作用が少なく、安全に治療を行うことが出来ます。そのため何度でも治療が可能となるのが最大の特徴です。

さらにレーザー光により、死滅したがん細胞の特徴を免疫細胞が認識し、離れた部位にあるがん細胞に対する効果も期待できます。レーザー光は、出力を変えることで様々な疼痛(腰痛、膝関節痛、股関節痛、痛風発作、パーテン結節など)に対する消炎・鎮痛効果を示しており、今後の可能性が、非常に期待される治療です。

8種遺伝子複合治療

これらの治療に加えて、当院では東京にある「表参道総合医療クリ



ニック」と連携して8種遺伝子複合治療も行っています。特に当院ではこれを経静脈的だけでなく腹腔内にも直接投与することで効果を挙げている。

私たちはがんの種類や進行度に応じてこれらの治療を組み合わせ提供するテーラーメイド治療を行っています。

また私の原点のアンチエイジング治療にも力を入れており、がん治療以外にも幹細胞治療、NMN治療、PRP治療など最新のアンチエイジング治療も導入しています。

当院ではがん治療だけでなくがんの予防医療も提供しています。なお本年十月末より、ゆとりあるがん治療・アンチエイジング治療を受けていただくため、新たに京都山科きぼうのクリニックを開院いたしました。

医療法人社団 貴正会

村上内科医院

<https://murakaminaika.com/>

※点滴療法(自由診療)は完全予約制となります。

所在地 ◆ 京都府京都市山科区四ノ宮垣ノ内町1

電話 ◆ 075-501-2551

◎治療についてのお問い合わせ

075-591-4722(本部)